

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



2面

耕畜連携の取り組みを フォーラムでPR

(耕種資材部・畜産総合対策部・福岡県本部)

2面

担い手育成に向けて 和牛甲子園に全国40校が集う

(畜産総合対策部)

配送先変更(住所・宛名)、
配布部数変更はこちら



<https://x.gd/G3W90>

写真提供：神奈川県本部
湘南ゴールド

News!



耕畜連携の取り組みをフォーラムでPR

福岡県本部と福岡市が農水省農産局長賞を受賞

耕種資材部・畜産総合対策部・福岡県本部



表彰式に出席した福岡県本部農機資材部生産資材課の岩井順将課長(前列右から3人目)と田淵さん(後列右から3人目)

第1回 国内肥料資源利用拡大アワード 受賞団体

農林水産省 農産局長賞
朝日アグリア(株)
全国農業協同組合連合会福岡県本部・福岡市
農林水産省 畜産局長賞
アークグループ
南国興産(株)
国土交通省 上下水道審議官賞
鶴岡市・鶴岡市農業協同組合
富士見工業(株)
国内肥料資源の利用拡大に向けた全国推進協議会 奨励賞
計10団体

フォーラムは国内肥料資源の利用拡大に向けた全国推進協議会(事務局・農林水産省)が主催し、全農は2023年6月の初回開催から出展を続けています。今回は、今年度が第1回開催となる「国内肥料資源利用拡大アワード」の表彰式も併せて実施。複数の系統メーカーが受賞する中、耕畜連携の一環として、畜ふん堆肥と下水再生リン

を活用した肥料銘柄「e・green」の普及に取り組んだ全農の福岡県本部が、福岡市と連名で農林水産省農産局長賞を受賞しました。表彰式に参加した福岡県本部の田淵浩平さんは「e・greenのさらなる普及により、生産者の所得向上と国内資源循環に貢献したい」と語りました。全農は、今後も国内肥料資源の利用拡大に向けた取り組みを続けていきます。

全農は1月31日に東京都大田区で開催された「国内肥料資源の利用拡大に向けたマッチングフォーラム」にJAGグループ合同ブースを出展し、それぞれの取り組みをPRしました。

News!



担い手育成に向けて 和牛甲子園に全国40校が集う

広島県立西条農業高校が総合評価部門最優秀賞に

畜産総合対策部



全国から集まった高校牛児

全農は1月16、17日、東京都港区で第8回和牛甲子園を開催しました。25道府県から初出場3校を含む40校が出場し、出品牛は過去最多の63頭となりました。総合評価部門の最優秀賞は、広島県立西条農業高校が受賞しました。

和牛甲子園は、和牛を飼育する全国の農業高校の生徒である「高校牛児」たちの大会です。全農は、将来の担い手候補である高校生への就農意欲の向上と、同じ和牛飼育に関する日頃の取り組み内容を競う取組評価部門と、育てた和牛の肉質を競う枝肉評価部門の2部門で評価し、両部門の合計得点で総合評価部門の最優秀賞を選出します。

志を持つ高校生同士のネットワークを創出し、意欲と技術の向上を図ることを目的に和牛甲子園を開催しています。

和牛飼育に関する日頃の取り組み内容を競う取組評価部門と、育てた和牛の肉質を競う枝肉評価部門の2部門で評価し、両部門の合計得点で総合評価部門の最優秀賞を選出します。

最優秀賞を受賞した西条農業高校は、取組評価部門で「広島和牛に新たな息吹を！」地域と目指すブランド向上」をテーマに発表し優良賞を受賞、枝肉評価部門でも出品牛の枝肉がA5等級、BMS12番の評価を受け優秀賞を受賞しました。

今後も、全農は和牛甲子園を通じて全国の高校牛児を応援していきます。



中学生が有機野菜の給食を考案

岐阜県産使ったメニューを地域住民と味わう

岐阜県本部

1月16日に提供された給食



岐阜市の小・中一貫校である藍川北学園は、家庭科の授業で県内の農産物や有機野菜について学んでいます。夏休みには、県教育委員会主催の「中学生学校給食選手権」のメニューを考える課題にも取り組みました。

中学2年生が意見を出し合い、野菜嫌いの子や低学年の児童にも食べやすいようメニューを工夫。1月16日に「キウイの有機マカレー」、市内産有機サトイモの「岐阜づくしチップス」、市内産有機ダイコンの「寒天サラダ」、県産米の

岐阜県本部は、県内で生産される有機野菜を子どもたちに食べてもらうために自治体や学校給食会、JAぎふと連携を進めており、1月には岐阜市内の学校で有機野菜を使った給食が初めて提供されました。



県産有機農産物を使ったメニューを紹介する中学生

「ハツシモ麦入りごはん」など県産農産物を使った給食が並びました。さらに日頃関わりのある地域住民も招き、同じメニューを提供しました。

岐阜市産の有機野菜は、JAぎふが進める環境調和型農業の一環であることから、今後も子どもたちに地元の農産物や有機野菜に関する理解を広め、農業の持続的な発展を目指します。



「長崎いちご」を大阪で売り込む

知事らも参加し卸売市場でトップセールス

長崎県本部



「長崎いちご」をPRする大石知事と真壁正二郎運営委員会会長(右から2人目)、谷口政秀県本部長(左から2人目)

トップセールスでは県内JAの「長崎いちご」を展示・配布し、中央卸売市場の仲卸業者や量販店バイヤーなどにアピールしました。

大石知事は「本年産も品質の良いイチゴに仕上がっている。消費者の皆さまに満足いただけるイチゴを自信をもって長崎から届けて

長崎県本部は1月30日、大阪市中央卸売市場で「長崎いちご」トップセールスを行い、大石賢吾県知事をはじめ生産者代表、県内JA・県本部の役職員らが参加しました。

「いきたい」と市場関係者に対して力強くPRしました。

2024年産「長崎いちご」の出荷数量は8171トンを計画し、5月まで続く販売に向けて、継続して高品質なイチゴの生産に努めます。長崎県本部では「長崎いちご」の販路維持・拡大を図り、消費拡大のための宣伝活動に継続して取り組んでいきます。



県内JAの「長崎いちご」を展示し市場関係者にPR

カーリング 日本選手権が 首都圏初開催



全農が選手の皆さんと大会を
「ニッポンの食」で応援!

全農は2月2～9日、神奈川県横浜BUNTAIで開催された「日本カーリング選手権大会 横浜2025」に協賛し、選手の皆さんを「ニッポンの食」で応援しました。

【広報・調査部】

9日に行われた決勝戦で、男子はSC軽井沢クラブ、女子はフォルティウスが優勝しました。両チームは3、4月に行われる「世界カーリング選手権大会」に日本代表として出場します。



折原会長から優勝チームへ副賞を贈呈 (写真は男子「SC 軽井沢クラブ」)



大会前日の記者会見で選手らに「ニッポンの食」を贈呈



MVP 賞の選手には JAタウンのギフトカードを本大会公式応援サポーターで JAタウンオフィシャルサポーターでもある秋元真夏さんより贈呈 (写真は小野寺佳歩選手(フォルティウス))

優勝した両チームには副賞

として、秋田県産米「あきたこまち」1斗と、全農が運営する産地直送通販サイト「JAタウン」の「旬食便」から「全国各地・自慢の果物をめぐるおうちで楽しむニッポンの果物! (12カ月コース)」を全農の

折原敬一経営管理委員会会長より贈呈しました。

全農は、出場選手の皆さんにハーフタイムや試合前後のエネルギー補給として活用してもらおうように、栃木県産イチゴ「とちあいか」を全チームに8パックずつ、福島県産あんぼ柿を1ケースずつ提供したほか、選手エリアに「もぐもぐブース」を設置しました。もぐもぐブースでは「とろと

ろ半熟ゆでたまご」や「農協のむヨーグルト濃厚クリーム仕立て」、ニッポンエール商品などの全農グループ取り扱い商品を提供しました。

また、会場内の全農ブースでは、副賞と同じ精米を使用した大会オリジナル和牛おにぎりや、「もぐもぐブース」で選手に提供している全農グループ取り扱い商品を販売するなど、来場者の皆さんにも「ニッポンの食」を楽しんでもらう企画を実施しました。

全農はこれからも「ニッポンの食」を通じてカーリング競技を応援します。

もぐもぐブース提供商品

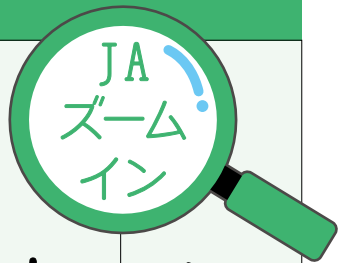
商品	取り扱い等
栃木県産イチゴ「とちあいか」	全農
福島県産あんぼ柿	
豆腐スイーツバー ※国産大豆使用(原料供給)	
“エコープマーク”もちもちミルクパンミルク味	Aコープ、JAくらしの宅配便
“エコープマーク”米粉でカリッとかりんとう	
“エコープマーク”玄米おこしミックス	
ジュース各種	JAタウン
ゼリー飲料各種	
“ニッポンエール”ひろしま 米粉パウムクレーン	協同乳業(株)
農協のむヨーグルト濃厚クリーム仕立て	
1日分の鉄分のむヨーグルト	
農協ミルク(濃甘いちご、まるやかコーヒー)	全国農協食品(株)
“ニッポンエール”国産紅はるか干し芋	
“ニッポンエール”ドライフルーツ(各種)	
“ニッポンエール”ご当地グミ(各種)	JA全農たまご(株)
とろとろ半熟ゆでたまご(かつお節風味)	



全農ブースでの飲食販売

大会オリジナル
和牛おにぎり





シイタケの原木栽培を支援

肉厚で味、香りともに良質に

JA鳥取いなばは県東部に位置し、鳥取市、岩美町、八頭町、若桜町、智頭町の1市4町を管内とし、組合員数は約3万2000人です。管内は標高のある山間地から沿岸の砂丘地まで広がり、豊富な水量の千代川水系が鳥取平野の田畑を潤す、緑が多い地域です。



良質な仕上がりの原木シイタケ

ほだ木・ほだ場診断で品質向上、収量確保へ

JAは、原木栽培によって肉厚で味、香りともに良質なシイタケの生産を支援しています。県は傘の直径5センチ以上のシイタケを「とっとり115」として販売。傘の直径8センチ以上、厚さ2.5センチ以上の物は「鳥取茸王」と名付け、ブランド化に力を入れています。

昨年7月4～16日の期間は、同JA12支店管内で生産者、県（一社）日本きのこセンター、JA職員らが参加するシイタケのほだ木・ほだ場診断を行いました。診断では、秋から春にかけて植菌した原木を割り、シイタケ菌の活着具合やほ



シイタケほだ木・ほだ場診断

だ場の環境を調査。新植ほだ木の菌糸の成長や伏せ込み状況を確認しました。参加者は、今後の栽培管理の確認などを通じて品質の向上、収量確保を目指します。

二つの生産者組織を統合 技術と所得の向上を目指す

12月20日には鳥取市の日本きのこセンター菌茸研究

JA鳥取いなば (鳥取県)



概要	2023年1月31日現在
正組合員数	1万4143人
准組合員数	1万7611人
職員数	525人
販売品取扱高	65億1千万円
購買品取扱高	80億8千万円
貯金残高	1693億1千万円
長期共済保有高	5417億5千万円
主な農畜産物	米(星空舞、きぬむすめ、ひとめぼれなど)、梨(二十世紀、新甘泉など)、柿(西条、輝太郎、花御所)、野菜(ラッキョウ・鳥取砂丘らっきょう・福部砂丘らっきょう、白ネギ、アスパラガスなど)、鳥取和牛

所で「鳥取茸王」「とっとり115」の出荷目合わせ会を開きました。出荷要領・規格を確認し、変形・傷、巻き込みが弱いものなどを取り除きながら現物査定を行い、今年産の仕上がりを確認しました。

また、9月20日には鳥取いなば椎茸生産組合連合会の設立総会を開催しました。生産者・組織基盤を強固にし

産技術の向上や農業者所得の向上を目指します。

JA管内ではこれまで二つの生産者組織が原木シイタケの生産振興に取り組んできましたが、持続的な組織基盤の充実に向け両組織を統合しました。初代会長に就任した本城晃さんは「会員同士一丸となり、これからますます新しい組織を盛り上げていきたい」と意気込みました。



「鳥取茸王」「とっとり115」出荷目合わせ会

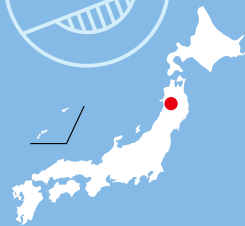


鳥取いなば椎茸生産組合連合会設立総会

県本部

だより

秋田県本部



「あきたこまち」デビュー40周年

記念品やCMなど多彩なイベントで感謝祭

秋田県本部とJAグループ秋田は、2024年9月7日に秋田県を代表するブランド米「あきたこまち」デビュー40周年を迎え、同日に「あきたこまちは、やっぱり秋田の誇りです」をキャッチフレーズに、「あきたこまち感謝祭」を秋田市のイオンモール秋田で開催しました。

当日会場では、秋田県本部の小松忠彦運営委員会会長や椎川浩県本部長ら関係者が、来場者先着

700人に記念デザインの「あきたこまち」2合入り小袋をプレゼントしました。

記念のビール、せんべいを 県内企業と共同開発

イベントでは、40周年を記念して県内企業と共同開発した「あきたこまち」を原料に使用したビール（秋田あ



1



2



3

- 1 イベントは多くの来場者でにぎわった
- 2 来場者一人一人に「あきたこまち」を手渡した
- 3 県内企業と共同開発したビールとせんべい

くらビール製造）やせんべい（米菓匠 鼎盛製造）を販売しました。

感謝と喜びを表現

テレビなどでCM放送

秋田県出身のシンガーソングライター・高橋優さんが書き下ろした曲にあわせて、「あきたこまち」を支援してくれた感謝と喜びを表現したCMのメイキング映像と高橋優さんの応援メッセージを公開しました。CMは10月から約2カ月間、県内外のテレビやTVer、YouTubeなどで放送されました。

Instagramで

カウントダウン企画

秋田県本部公式Instagram「美人を育てる秋田米」では誕生日の40日前から、毎日イラストとメッセージを投稿するカウントダウン企画を実施しました。

「#拝啓あきたこまちより」と題し「あきたこまち」が生産者と消費者へのメッセージを送るもので、イラスト

トは秋田県出身のイラストレーター・石川鈴子さんに描いていただき会場にも展示されました。

物販やオブジェ展示

お米重量挙げ選手権も

来場者が参加して開催した「あきたこまち40キロ重量挙げ選手権」は、優勝賞品「あきたこまち」40キロをかけた熱い戦いとなり、この日1番の盛り上がりを見せました。そのほか物販やフォトスポットとして40周年記念オブジェを展示するなどし、会場は「あきたこまち」二色となりました。

秋田県本部は、9月7日の「あきたこまち感謝祭」以外にも県内外で「40周年特別企画」を展開しました。

今後も「あきたこまち」が全国のトップブランドとして愛されるように生産者とともに高品質でおいしい秋田米の生産・販売に取り組みます。



来場者も参加して盛り上がった重量挙げ選手権

営業開発部

商品を通じて産地を応援 ニッポンエールプロジェクト

営業開発部は、カテゴリーの異なる食品メーカーが同じテーマで商品を開発・販売することで産地を応援する「ニッポンエールプロジェクト協議会」の取り組みをすすめており、令和6年秋は第4弾として「沖縄県産黒糖」をテーマに展開しました。



㊤ニッポンエールプロジェクト協議会メンバーと生産者の交流
㊦沖縄県離島の小学生との交流(学校給食で黒糖カレーを振る舞い)

沖縄県では、不安定な水資源、台風や干ばつなどの特殊な気候条件から県内の7割がサトウキビを生産しています。特に生産規模の小さな離島では、各島にある製糖工場が加工される黒糖生産が地域産業の主体となっていることから、黒糖の需要を維持することが離島の生産者のくらしを守ることに繋がります。

協議会に参画する食品メーカーが商品を通じて黒糖の消費拡大と産地応援に取り組み、JAおきなわや生産者からも取り組みを高く評価する声が聞かれました。4月には第5弾「瀬戸内広島レモン」をテーマとした商品を発売する予定です。

輸出対策部

青果物の輸出拡大へ 現地規制やニーズに対応

輸出対策部は、昨年度から青果物の輸出拡大に向けた輸出産地づくりの取り組みを進めています。



産地連携による香港販売先でのフェア開催

畜産物や米については輸出産地としての位置付けが明確になっていますが、青果物の輸出専用産地は少なく、国内向けに生産された青果物が市場経由で海外に輸出される事例が多いのが現状です。

その結果、海外現地の輸入規制に違反し破棄されたり、日本産同士で価格競争に陥ったりするなどの課題が生じています。全農はこうした青果物の輸出課題を解決するために、現地の輸入規制やニーズに対応した輸出産地づくりを進めています。



海外販売先バイヤーの産地招聘の様子

今年度はJA全農インターナショナル(株)と5県域が連携し、産地からの計画的な仕入れや国内物流コストの削減、海外バイヤーの招聘(しょうばい)を通じて、輸出拡大に取り組まれました。

全農は、今後も輸出を通じて生産基盤の維持・拡大と生産者の所得拡大を目指します。

園芸部

青果物の共同配送事業 北九州SPでスタート

園芸部は、令和6年4月から強化されたドライパー労働時間の規制への対応や、九州産青果物の物流効率向上を目的に、北九州中央卸売市場内の冷蔵施設を活用した北九州ストックポイント(以下・北九州SP)の設置・運用を開始しました。

を抱える本州産地から九州卸売市場向け出荷の配送拠点としての機能を今後發揮していくため、本州の複数県域との協議も進めています。

引き続き、全国の産地を対象に共同配送の取り組みを推進し、より一層の青果物物流全体の効率化を目指します。

の青果物を集約し、京浜・阪神地区などの消費地向けに共同配送することで、荷下ろし箇所数の削減などによるドライパー拘束時間の削減やトラック積載率の向上を図るとともに、フェリーを活用したモーダルシフト輸送やパレット輸送の拡大にも取り組んでいます。

また、同様の物流課題



㊧北九州SPで合積みし複数JAの荷を共同輸送
㊨パレットを活用したスムーズな荷積み



群馬県産原料の2商品を新発売、知事を表敬訪問

ファミリーマートと こんにやく消費を促進



新商品
「こんにやく味噌田楽」(左)と「かつおこんにやく」

群馬県知事を表敬訪問



全農は、価格低迷が続く群馬県産こんにやく芋の産地応援の一環として(株)ファミリーマートとこんにやくの新たな食べ方の提案や若年層への普及に取り組んでいます。2月には、同取り組み報告のため、群馬県の山本一太知事を表敬訪問しました。

【群馬県本部・経営企画部・営業開発部】

国産こんにやくの消費低迷が続く中、群馬県では異常気象による不作、資材の高騰などで販売価格が生産コストを下回る状況が長期化、生産者の離脱が顕著となっています。

そこで全農は、ファミリーマートと

共同で2月18日から群馬県産こんにやく原料を使った「かつおこんにやく」「こんにやく味噌田楽」の2品を新たに発売します。消費拡大を目指して、既存商品の「かつおの香りと旨み玉こんにやく」「生姜スープで食べる糖質0gこんにやく麺」2品と合わせて継続販売します(一部地域を除く)。

2月4日には、こんにやくをはじめ「孺恋高原キャベツ」「赤城高原レタス」などを含む県産農産物の消費拡大・PRの取り組み報告を行うため、2011年からファミリーマートと包括連携協定を締結している群馬県の山本知事を表敬訪問しました。

秋元真夏さんが「湘南ゴールド」収穫

「ゆるふわたいむ」とコラボ、神奈川県産農畜産物をPR



「湘南ゴールド」生産者・榎本さんのもとで収穫を体験する秋元さん



神奈川県産農畜産物をPR

神奈川県本部は、全農が運営する産地直送通販サイト「JAタウン」のショップ「JA全農かながわ」の販売促進の取り組みとして、YouTube番組「ゆるふわたいむ」で県産農畜産物をPRしました。

【神奈川県本部】

撮影では、湯河原町の園場で、JAタウンオフィシャルサポーターでタレントの秋元真夏さんが「湘南ゴールド」生産者の榎本昌之さんに教わりながら収穫を体験しま

した。収穫後、初めて「湘南ゴールド」を食べた秋元さんは「酸味もあるが、ジュシーでおいしい」と感想を語りました。

その後、秋元さんは、やまゆりポークや県産野菜を使用したカレーを作り、榎本さんに振る舞いました。JAかながわ西湘の農産物直売所「朝ドレファ〜ミ♪成田店」も訪問して、県産農畜産物や加工品を購入。動画を通じて、購入した県産農畜産物を視聴者にPRしました。

JA全農の産地直送通販サイト



JAタウン ショップ紹介



三重の味自慢

三重県オリジナルのイチゴ「うた乃」は、今年度デビューの新品種です。

「贈ってうれしい♪ 食べてうれしい♪」を目指し、32年もの歳月をかけて甘さと外観を追求して開発されました。名前には「歌のように広く愛されるイチゴになってほしい」という願いが込められています。

「うた乃」は、外観、食味、風味の3拍子がそろった、思わず誰かに贈りたくなるイチゴです。果形はきれいな円すい形でそろいがよく、鮮やかな赤色が目を引きま。食べる前からフローラルな香りが漂い、一口食べれば濃厚な甘さが口の中で際立ちます。



【新品種】三重県産イチゴ「うた乃」
250g × 2 パック… 3980円(税込み)
※配送日指定不可

ご注文はこちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com

